



ストリートダンスでまちを元気に

代表 井上 和也 さん

市の消防士として働く一方、小学生から大人まで、サークル活動としてストリートダンスを指導している井上和也さん。absu Ich: Dance Contest 2013・2014優勝、などの経歴を持たれています。ダンスを通じて生徒たちに伝えたいことを伺いました。

ストリートダンスとの出会い

西市民プラザのレッスン場で、子ども達がダンスを踊る中、「ちゃんと練習せんと上手くならないで!」「どんな曲でも同じように踊ってたらあかんやろ?曲を感じて自分で考えて表現してみな」と井上さんの声が。

舞鶴市で生まれ育った井上さんは、高校まではずっと野球少年。けがもあり落ち込んでいた時期に友達に誘ってくれたダンス教室に通いだめたのがストリートダンスとの出会い。硬派な野球とその対極にあるようなストリートダンスでしたが、体を動かすのが好きだったこともあり、曲に合わせて自分を表現しながら踊るダンスの面白さにのめり込むことに。

ダンスをする場所をなくさないために

消防士になつてからもダンスを続けていきましたが、20歳の時に当時の先生が大阪へ行くことが決まり、教える人がいなくなることに。教室に通っていた生徒で、大人は井上さんだけ。「楽しそうに踊っている子ども達の練習の場がなくなってしまう」と思った井上さんは、踊れる環境を残したいという使命感から教室を継続し、子ども達を指導することになった。

ダンスを教える楽しみ

「都会ではストリートダンスのスクールはいっぱいあるし、さまざまな環境が整っている。でも、舞鶴ではダンスをする場所すらなかったし、大会なども地方では開催されない。シーンそのものを自分たちで考えて作るしかなかった」と当時のことを振り返る。だから子ども達にはこれが当たり前ではなくて、真剣に取り組んでもらいたいと考えている。

ダンスの世界で生きようと思ったことはあるが、ダンスを優先する生き方もありませんが、私は、普通に仕事をして、家族をもち、その上でダンスをすることに意味があり、そんな背中を生徒たちに見せられたらと思ったので消防士となりました。仕事柄、緊急の出勤命令が出るのでレッスンができないこともあります。仕事優先は理解してもらった上でのこと。レッスンの確保や練習の成果を発表するイベントの企画など、苦労することが9割だそうですが、子ども達が踊っている時の笑顔で癒されるという。「子ども達がダンスはもう大人間的にもだんだん成長する姿を見られるの

が嬉しいです。頑張れるのが見つければ、生活にメリハリができたか輝けるので、ダンスがその一つになればいいと思っています。それにストリートダンスの悪いイメージを変えたかったのもあります」と話してくれました。

井上さんは、子ども達に基礎をしっかりと教え、あとは振り付けも音楽も自分たちで考えて作り上げる「自主性」を大切にしている。「環境や土台からしっかり作り、一線で活躍してくれるダンサーを育てられたらと思います。舞鶴の子ども達は、よく言う『控え目』自己表現が少ないので、もっともっと自分を出して欲しい」と笑う。

井上さんも、ベリィダンスを教える奥さんとの間にお子さんが生まれ仕事に育児、ダンスと大忙し。親子で踊る日も近いかもしれませんね。



花図鑑

まいづる
vol. 127

本州(福島県以南)・西国・九州の日常当たりの良い草地に生える多年草。春、地下の鱗茎※から20センチ位の線形の2枚の葉を出す。花は、葉の間から葉よりも短い花茎を1本出し、先に白い花を1個付ける。花は日を受けて開き、花びらは6枚で暗紫色の筋がある。夏には地上部は枯れ休眠する。名前の由来は、鱗茎が甘く食用に使ったことから。

従来はユウリツブ属だったが、花が小型で花粉も違うことなどからアマナ属となった。

【協力】瓜生勝朗

市文化財保護委員(植物分野)



アマナ
(ユリ科)

見ごろ 4月頃

※…ユリネやタマネギのように葉が塊状になった球根状のもの

